

「福祉心理学研究」和文論文執筆の手引き
(2011年12月5日以降の投稿原稿より適用)

I. 原稿の仕様

1. 原稿の構成は原則として次の通りとする。
 - 1) 連絡票
 - 2) 表紙
 - 3) 和文要約 (キー・ワードを含む)
 - 4) 本文
 - 5) 文献 (引用文献・参考文献)
 - 6) 図表
 - 7) 英文要約 (Key Words を含む)
 - 8) 英文要約の邦訳
 - 9) 投稿承諾書
2. 原則としてワープロを用い、A4 判用紙に上下、左右に 3 cm 程度の余白をあげ、25 字×32 行 (800 字) で印字された原稿を提出する。A4 判用紙の原稿 2.5 枚は刷り上がり 1 頁に相当する。
3. 本文、文献、図表、要約を全て含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、展望および実践研究については 10 頁、資料および研究時評については 7 頁を上限とする。なお、やむを得ず規定を超過した頁に要する経費は投稿者負担とする (当分の間、負担額は超過 1 頁につき 10,000 円)。要約を除く論文の長さ (本文、文献、図表) は、原著論文、展望および実践研究については A4 判用紙の原稿 22.5 枚まで、研究時評 および資料については 15 枚までとし、それを超えた枚数の原稿は受理されないことがある。図表は刷り上がり頁数を A4 判用紙原稿に換算して含める。図表の A4 判用紙原稿への換算は、それぞれの図表が本誌刷り上がり頁で占める割合に 2.5 を乗じたものとする (図表が本誌刷り上がり半頁であれば、 $0.5 \times 2.5 = 1.25$ (枚) となる)。

II. 提出原稿部数

1. 原著論文・資料・展望の原稿については、オリジナル 1 部とコピー 3 部 (計 4 部) を提出する。
2. 研究時評・実践研究の原稿については、オリジナル 1 部とコピー 2 部 (計 3 部) を提出する。
3. オリジナル 1 部には連絡票をつける。
4. コピー原稿の表紙には論文の種類と表題のみを記し、著書名、所属は記さない。
5. 論文が採択された後、当面は図表を除くすべての原稿内容がテキストファイル形式 (txt) で保存された電子ファイルを最終原稿とともに提出する。
6. 電子ファイルを用意できない場合は、その旨を連絡票の⑥に明記する。

III. 連絡票

連絡票には、下記の①から⑥までの事項を一括して一葉に記す。

- ①連絡先氏名・住所：〒000-0000 八千代市保品1-2-3
成徳大学教育学部 鈴木太郎
- ②電話番号：0000-00-0000
- ③ファックス番号：0000-00-0000
- ④e-mail アドレス：suzuki@seitoku-u.ac.jp
- ⑤原稿の枚数：本文 ○○枚（刷り上がり頁数換算で○. ○頁）
図 ○枚（刷り上がり頁数換算で○. ○頁）
表 ○枚（刷り上がり頁数換算で○. ○頁）
写真 ○枚（刷り上がり頁数換算で○. ○頁）
和文要約 ○枚
英文要約 ○枚
同日本語訳 ○枚
- ⑥採択された場合の電子ファイル提出の可否：可（ワープロソフト名）

IV. 表紙

表紙には、下記の①から⑧までの事項を一括して一葉に記載する。

- ① 論文の種類別：原著論文、資料、展望、研究時評、実践研究の種類を明記する。
- ② 表題：論文内容に即したものとし、一連の研究の場合は類似した表題は避ける。
例：「○○○における△△△△におよぼす××××の効果」
- ③ 著者名：著者が複数の場合は[・]で区切る。
例：鈴木太郎・田村花子
- ④ 所属機関名：大学の場合は、学部名等も記す。
例：成徳大学教育学部
- ⑤ 表題の英訳：
例：Effects of ×××× on △△△△ in ○○○○
- ⑥ 著者名のローマ字表記：原則としてヘボン式を用いる。
例：Taro SUZUKI and Hanako TAMURA
- ⑦ 所属機関名の英訳：
例：Faculty of Education, University of Seitoku
- ⑧ 所属機関所在地のローマ字表記：市名、郵便番号（7桁）のみとする
例：Yachiyo-shi, 000-0000

V. 和文要約とキー・ワード

原著論文、資料、展望、実践研究には、400字以内（25字×16行）の和文要約と3～5項目の和文キー・ワードをつける。それぞれのキー・ワードの間はスペースで区切る。

VI. 本文

1. 論文構成に用いる記号

論文構成に用いる記号はローマ数字(全角)、算用数字(全角)、両括弧付算用数字(全角)の3段階程度とし、細かくなり過ぎないようにする。また、見出しのあとにはピリオドをつけない。

- (1) 大見出し：ローマ数字を用い、上に1行をあける。
- (2) 中見出し：算用数字を用い、上に行をあけない。左端から1字あけて書く。本文は改行して始める。
- (3) 小見出し：(1)のように算用数字に両括弧を付け(ともに全角サイズ)、上に行をあけない。左端から2字あけて書き、コロン(:)で区切って本文を書き始める。
- (4) これ以下の小見出しについては左端から2字あけることとし、記号は著者の用いたものをそのまま用いる。

2. 表記について

- (1) 記号：以下の記号を用いることができる。

記号	使用例
① 中点 (・)	並列する同種の語を列挙する場合.
② ハイフン (－)	外国語の対語・対句の連結の場合.
③ 引用符 (“ ” または 「」)	引用文に用いる.
④ 括弧	() または [] を用いる.
⑤ コロン (:)	例、説明などを導く場合などに用いる.
⑥ セミコロン (;)	引用文献を列挙する場合、あるいは検定結果を列挙する場合に用いる.
⑦ 省略符 (…)	引用文の一部あるいは前後を省略する場合に用いる.

- (2) カタカナ：本文中の外国語の使用はできるだけ避け、原則として日本語化した外国語を記述する時にのみ用いる。

- (3) 数字：原則として算用数字を用いる。

- (4) 略語：一般に用いられているものに限る。ただし、必要な場合には、初出の時にその旨を明記する。

- (5) 検定結果の表記：各種統計的検定の結果を示すときには、以下のように検定統計量、自由度ならびに有意水準等を明記する。

$(F(1/50) = 7.05, p < .05)$ 、 $(\chi^2(5) = 1.54, p < .05)$ など

※ F 、 t 、 p などは斜体(イタリック)とすること

VII. 文献

1. 引用文献：本文において引用されたすべての文献を、著者名のアルファベット順に論文の後に「引用文献」として一括して記載する。同一著者の複数の文献は発行年順とする。同一著者による同一年の文献が含まれる場合は、発行年の後に小文字のアルファベットを付けて区別する。
2. 参考文献：本文中に引用はしていないが論文内容と密接に関連し、特に紹介すべきであると考えられる文献については、「参考文献」として、「引用文献」の後に同様に一括して記載する。著書については、頁数の記入はなくてもよい。
3. 引用文献および参考文献の書式
 - (1) 雑誌：著者名(西暦年) 題目. 雑誌名, 巻数(必要な場合は号数), 開始頁－終了頁.
 - (2) 著書：著者名(西暦年) 書名. 出版社, 出版地, 開始頁－終了頁(必要な場合).
 - (3) 分担執筆：著者名(西暦年) 章題. 編者名(編), 書名. 出版社, 出版地, 開始頁－終了頁.
 - (4) 訳書：原著者名(西暦年) 原書名. 出版社, 出版地, 訳者名(西暦年) 書名. 出版社, 開始頁－終了頁(必要な場合).
 - ※ 欧文の書名(原書名) および雑誌名は斜体(イタリック) とする。
 - ※ 和文著書の場合、出版地は省略する。

例：

鈴木太郎・田村花子 (2002) 社会福祉施設職員の〇〇に関する研究 (第1報). 〇〇福祉研究, 3(1), 63 - 71.	→ (1) 雑誌 (和)
Cooper, S. A., Bucy, A., & John, R. (2001) Early onset of autism. <i>International Journal of ***** Education</i> , 56, 692-700.	→ (1) 雑誌 (欧) : 著者3名以上では&の前に(,)を必ず入れる。雑誌名は斜体。
田村花子 (2002a) 〇〇障害の医学. 〇〇と科学社, 12 - 15.	→ (2) 著書 (和) :
田村花子 (2002b) 〇〇障害の医学. 〇〇と科学社, 120 - 128.	同一著者・年はa, bで区別。
Wilder, L. (1991) <i>Neuroanatomy of autism</i> . The ***** Press, London.	→ (2) 著書 (欧) : 書名は斜体。
田村花子 (1975) 〇〇障害幼児. 鈴木太郎 (編), 障害〇〇の心理学. 〇〇文化科学社, 11 - 49.	→ (3) 分担執筆 (和)
Miller, S. R., Miller, C. S., Dolan, J., & Anderson, J.A. (1999) Down syndrome: Cognition, behavior, and genetics. In A. M. Korenberg & D. Atkinson (Eds.), <i>Handbook of ***** disorders</i> . ***** Press, New York, 61 - 115.	→ (3) 分担執筆 (欧) : 編者1名 : (Ed.). 編者複数 : (Eds.). 編者3名以上は&の前に

Knight, L. & James, W. (1999) *Educating and understanding
**** syndrome*. Wing Press Inc., California. 田村花子・鈴木
木太郎監訳 (2002) ○○症候群への発達支援. 成徳学術出版社,
32 - 45.

(,) を挿入。書名は
斜体。

→ (4) 訳書
原書名は斜体。

4. 本文中の引用の仕方

著者名の省略は避け、全員の名前を明記する。ただし、著者が3名以上である場合は初出時のみ全員の名前を明記し、その後は「(筆頭著者名)ら」(欧文の場合は「(筆頭著者名) et al.」)と記す。著者が複数の場合、著者名の連記は以下の例に従うこととする。

(1) 文中の場合

例：◎鈴木・田村 (1981) および佐藤 (1980) は・・・

◎佐藤・鈴木・小川・池田 (1963) は・・・。・・・佐藤ら (1963) ・・・。

◎Sturges and Martin (1974) は・・・。(& 記号は用いない。著者が2名の場合、and の前に (,) を入れない。

◎Wallach, Newman, and Rosenzweig (1974) は・・・。・・・Wallach et al. (1974) によると・・・。(著者が3名以上の場合、and の前に (,) を入れる)

(2) 文末などの () 内の場合

例：◎・・・と指摘されている (鈴木・田村, 1981; 佐藤, 1980)。

◎・・・と指摘されている (Wallach, Newman, & Rosenzweig, 1974; ...)。

※ & の記号を用いる。

※ 引用文献が複数の場合はセミコロン (;) で連ねる。

※ カッコ内の引用順は、論文末にあげる引用文献の順に準ずる。

(3) その他文献研究等ではつぎの表記とする。

例：◎・・・と指摘されているが (Martens [1965] 56)、これを否定する見解もある (Farrell [1970] 121)。

VIII. 図表及び写真

1. 図表の表記：引用順に Fig. 1、Table 1 のようにする。

2. 図表および写真の数：必要最小限のもののみ、合計5点前後とする。

3. 図表・写真の用紙：原則としてA4判の白紙を使用し、用紙1枚につき図表・写真等各1点とする。

4. 図表・写真の大きさ

(1) 原稿刷り上がり時にスペースも含め、本誌1ページの半幅 (70 mm : 片段) また

は全幅（150 mm：段抜き）に収まる大きさとする。

（2）図表は、原則として刷り上がり時の2倍の大きさで作成する。

（3）図表は本文に比べ大きな紙面を要するので、その割合で文字数に換算し、所定の枚数を超えないように注意する。

5. 図及び表中の註：いずれも図表の下部に、右につめて記す。図、表、写真などの題、説明文、図表中の文字は英文に統一してもよい（資料1・資料2参照）。

6. 表作成上の注意：原則として、縦線は用いず、また横線はなるべく少なくする。

7. 本文の右横の空白に図表及び写真の挿入箇所を指定する。

8. 写真などの製版に要する費用は投稿者の自己負担とする。

IX. 註釈

必要がある場合は、本文中にその箇所を明示したうえで、1)、2) ----のように上付きで通し番号をつけて註を付す。また、本文と文献欄の間に、すべての註を1)、2) ----のように番号順に記載する。

例：本文 Martens の現状擁護の主張(Martens [1965] 56) に対して、Farrell はそれとは異なる立場1) をとる(Farrell [1970]121)。

註欄 1) Martens の理解に対立するFarrell の見解は、-----という主張にみられるように(Farrell [1970] 129)、特殊教育のみならず、社会的環境の変化に基づいているのは明らかである。

2) ----

3) ----

X. 英文要約

原著論文、資料、展望には英文表題、200～300語以内の英文要約、3～5項目の英語のKey Wordsをつける。その際、下記の諸点に留意すること。

（1）熟達した人の英文であるか、その校閲を経ていること。

（2）白紙のA4判用紙にダブルスペースで印字すること。

（3）和文要約とは別に、英文要約の邦訳を必ずつけること。

XI. 投稿承諾書

論文を投稿する場合には、本手引きの最終頁にある投稿承諾書を1部提出すること

資料1 表の書式

Table 1 ○○○○○○○○○

題は表の上部

太く

群	Word Perception		Word Memory	
	平均	SD	平均	SD
A	37.9	6.7	23.1	5.2
B	39.3	6.8	25.0	4.2
C	40.4	6.6	25.0	4.6

太く

表の説明 *右につめて記す.

- ・縦線は用いない.
- ・横線は最小限で.
- ・要点をコンパクトに記し, 大きすぎる表は作らない.

表および表注では文の句読点としてカンマ (,) とピリオド (.) のみ用いる

資料2 図の書式

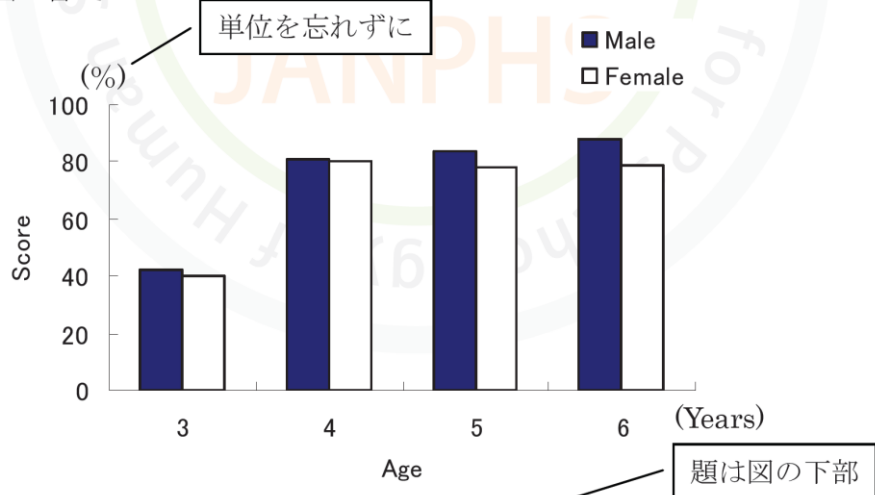


Fig. 1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○

図の説明 *右につめて記す.

図注では文の句読点としてカンマ (,) とピリオド (.) のみ用いる

投稿承諾書

下記の論文を「福祉心理学研究」に投稿いたします。なお、本論文は他誌に掲載済みのも
の、あるいは掲載予定のものではありません。また、貴誌に掲載後、本論文の著作権は、日
本福祉心理学会に帰属することを承諾いたします。

筆頭著者：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

論文題名： _____

共著者 ：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者 ：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者 ：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者 ：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者 ：氏名 _____ 印
 会員番号 _____
 所属 _____

年 月 日 提出